

【杉並区自殺対策計画(案)】 区民等の意見の概要と区の考え方

No.	意見の概要	区の考え	修正の有無
1	<p>杉並区における自殺者の特徴は明らかですが、杉並区自殺対策の取組は関心を高めるとかゲートキーパーを増やすとか漠然としている。男性の自殺者は40歳代が最も多いという特徴があるので、40歳代男性に特化したピンポイントで取組をしてはどうか。例えば、仕事や家庭での立場から離れ、個人として参加できるスポーツイベントなどを企画してはどうか。</p>	<p>国から提供された杉並区の自殺者の特徴にあるように、40歳代から50歳代の男性では、背景にある主な自殺の経路として、勤務問題からうつ状態となり自殺に追い込まれることが挙げられています。そのため、本計画では「働く人への支援」を重点的に取り組む対象としています。自殺に至るまでには多様かつ複合的な問題があり、自殺に至る要因や過程に着目して対策を行うことが重要と考えています。働く人がストレスチェックをすることで、自分のストレスの状態を知り、ストレスをためすぎないように対処するために、心の健康に関する普及啓発や相談窓口の周知を強化します。</p>	無
2	<p>男性の自殺者数は女性の約2倍と明らかに男女差がある。計画案でも男性の自殺対策を重点化すべきである。 従来「男女平等」というと女性の社会経済的地位向上の意味が強かったが、ある面では男性も救うべき対象という視点を取り入れることで、「男女平等」の意味をより深く考え実践することにつながることから、男女共同参画行動計画とも整合を取るべきである。</p>	<p>また、経営者・人事担当者を対象として、働く人のメンタルヘルスに関する普及啓発や、職場において早期支援を行うゲートキーパーの養成に取り組みます。 なお、スポーツイベントなどの企画については、広く区民等を対象として、個人が当日気軽に参加できるプログラム（楽しく健康タイムやふらっと教室など）も行っています。 すべての人が性別に関わらず等しく認められ、かけがえのない存在として互いに尊重しあい、自分らしさを発揮して存分に活躍できる社会づくりをめざして策定した杉並区男女共同参画行動計画と連携を図りながら推進していきます。</p>	無
3	<p>妊娠中や出産後、精神的に不安定な方について保健センターを核に、自宅でのサポートが退院直後から受けられるようにしてはどうか。</p>	<p>妊娠中や出産後の方へは保健センターの保健師が精神的に不安定な方を含め、切れ目のない支援を行っています。出産後にはその家庭の状況に応じて、産後ケア事業や産前産後ヘルパー等、必要な支援を行っています。このような取組を通して、自殺リスクの減少に努めていきます。</p>	無
4	<p>男女ともに自殺者の多い30歳代から50歳代の被雇用者や主婦を対象に、自殺の原因として最も多い健康問題について講演会の開催や相談先の紹介を行ってはどうか。 講演会の内容はどのようにすれば日常生活を健康に過ごすことができるか等の前向きなテーマが良いと思う。 また会場は、保健所だけではなく、ゆうゆう館や地域区民センター等の区民に身近な場所が良いと思う。</p>	<p>自殺の原因と動機では、男女ともに健康問題が最も多く、その中では特にうつ病が多い調査結果となっています。そのため、自殺予防月間等に、うつ病等に関連する講演会の開催や相談先の周知を行っています。 日常生活を健康に過ごすことができるための講座等については、健康教室や運動教室など数多く取り組んでおり、広報すぎなみや区公式ホームページで周知しています。今後は、30歳代から50歳代が共感しやすい内容やテーマを企画し実施いたします。 会場については、区民の皆様の意向も踏まえて身近な場所で実施していきます。</p>	無

No.	意見の概要	区の考え	修正の有無
5	<p>働く人に関して、経営者・人事担当者向けの講演会では、厚生労働省が実施しているメンタルヘルス対策推進員の助言・指導を受け作成すると助成金を受けられる「心の健康づくり計画」の申請について紹介できるとよいと思います。</p>	<p>厚生労働省で実施している「心の健康づくり計画の助成金」等については、経営者・人事担当者の活用が期待される制度であることから、認知度を高める必要があると考えています。区が実施する経営者・人事担当者向けの講演会では、それらの制度についてもあわせて情報提供していきます。</p>	無
6	<p>うつ病予防を目的とした講演会が対象事業となっていますが、更年期女性の自殺は、この年代にうつ病を発症して自殺に至るということではなく、もっと早くからうつ病に患っていた人が、うつ病が長期化する中で家族関係が悪化したり、喪失体験が重なって自殺に至るケースが多いのではと思われる。</p> <p>更年期を迎えるうつ病女性をサポートする社会資源を作る（相談窓口やサポートグループなど）方が自殺対策に直結すると思う。</p>	<p>更年期女性の自殺予防については、講演会等の取組に加えうつ病の方への支援が重要です。うつ病の方への支援については、性別や発病時期に寄らず、相談窓口や当事者の集い・家族会などのサポートグループが既に区内に存在します。今後は、相談窓口の周知の強化とともに、サポートグループによる孤立を予防する取組みを推進します。</p>	無
7	<p>自殺未遂者への支援に未遂者の家族への支援を追加してもらいたいです。自殺未遂後も家族との関係性が変わらないと、再企図の危険性は継続します。未遂者家族への支援は再発防止のためには欠かせない視点だと思います。</p>	<p>自殺未遂者の再発を防止するために、家族と協力しながら支援していくことや家族の負担を軽減することは重要であるため、ご意見を踏まえ、相談の対象に「家族等」の表記を追加して修正します。</p>	有